

第37回在京花巻人のつどいに参加して

先日7月8日(土)“第37回在京花巻人のつどい”の会に菊池幹事長と熊谷監事が参加しました。会場はお馴染みの東京ガーデンパレスホテル高千穂の間でした。記憶を辿ると4年前の第34回集いの会に出席しており、改めて親近感を覚えたそんな会でした。

参加者は来賓の上田東一花巻市長をはじめ市議会議長、商工会議所、岩手日報社、花巻観光協会等の他に近隣ふるさと会の石鳥谷町、東和町、紫波町北上市及び遠野町から来賓の36名を加え約130名の盛大な集いの会でした。

総会は定刻11時30分に始まり瀬川紘一会長による開会挨拶、続いて昨年度の活動報告及び今年度の事業計画の説明、その後高橋良光副会長による昨年度の会計報告と今年度予算案の説明があり、議案は原案通り拍手を持って採択されました。



瀬川会長の挨拶



会場の状況

瀬川会長が触れた挨拶の中に会の維持や会員減少等々課題が有るものの、花巻人会役員16理事のうち11理事が入れ替わったことなどを紹介し、新たな発想を持って運営に力を注ぎ活性化を促進したいと…、その意気込みは御健在そのものでこの会にかける強い熱意を感じました。

12時半過ぎから懇親会に入り来賓の挨拶として上田花巻市長による花巻市の近況報告がありました。

特に力を入れたことはコロナ禍で苦境に晒された観光業界、看板の花巻温泉に対して市が国や県に先んじて支援対策を行なった事を紹介、今や花巻温泉は元気があり、活況に満ちて花巻市の経済を支えているとの事でした。

懇親会の歓談では故郷の語らいは別にして、花巻東校出身の大谷君、雄星君の活躍話には事を欠かなかったですね……そして今回のアトラクションは勇壮な花巻の伝統芸能“獅子踊り”ではなく、なんと南米アンデス地方(ボリビア・ペルー等)の民族音楽の演奏でした。

そのグループ名は“ロス・ポラチョス”あの“コンドルは飛んで行く”などの独特な音色を出す笛サンポーニャやケーナによる演奏は実に見事なものでした。私と同テーブルにいた演奏者の1人石鳥谷町人会の川上副会長は演奏歴20年以上というから驚きでした……………。